

一般社団法人 システムイノベーションセンター(SIC)

実行委員会 御中

デジタルエコノミー分科会

～ これまでの検討の経緯 ～

2021年4月28日

デジタルエコノミー分科会
事務局

Agenda

1. デジタルエコノミー分科会の目的と検討スコープ
2. デジタルエコノミー分科会の体制
3. これまでの検討経緯
4. 今後の課題

1. デジタルエコミー分科会の目的と検討スコープ

目的

我が国では、個人情報保護法やマイナンバーカード発行の伸び悩みにより代表される通り、個人情報の取扱いには非常にセンシティブな国民性もあり、**会社をまたがるデータ流通や共有には一定の抵抗感が根強い**。一方、AIの社会実装も進みつつあるものの、分析の前提となるデータについては自社保有データでの分析にとどまり、**公共データや他社データを共有あるいは流通させ、分析精度を高めるなどの基盤がネック**となっている。これは、データ流通に限らず、企業間でのデータ連携についても同様であり、オープンイノベーションの基盤作りがなかなか進まないのが我が国の現状である。

そこで、オープンイノベーションを前提としたデータ取引を可能とする仕組み、例えば**自律分散型でのシステム連携、データ取引所や情報バンクなどによるデータ共有などの構想を具体化し、政府や経済界と連携のうえ実証実験、実プロジェクト立ち上げを行う。**

分科会における 検討スコープ

□ **参加企業・アカデミアにて自社のデータ流通構想やユースケースを持ち寄り、要素技術を検討**

- 実装方式とアーキテクチャ（自律分散型 + API + 分散ID (PDS) + AI機能の実装方法）
- PDSのあり方（各社個別保有か、情報銀行保有か、スマホなどクライアント側か）
- データ流通基盤のルール（DFFT、標準化範囲と整備スキーム、データマーケット形成など）
- 自律分散型でのデータ解析（AI）の実装

□ **事例として共通的なビジネスケースを企画・実装・運用して評価**

- 自律分散型アーキテクチャ (Trusted Web) を簡易実装し、技術的な考慮事項を洗い出す
- 市場経済を形成すべく、特定の製品に依らない標準化を意識した検討を進める

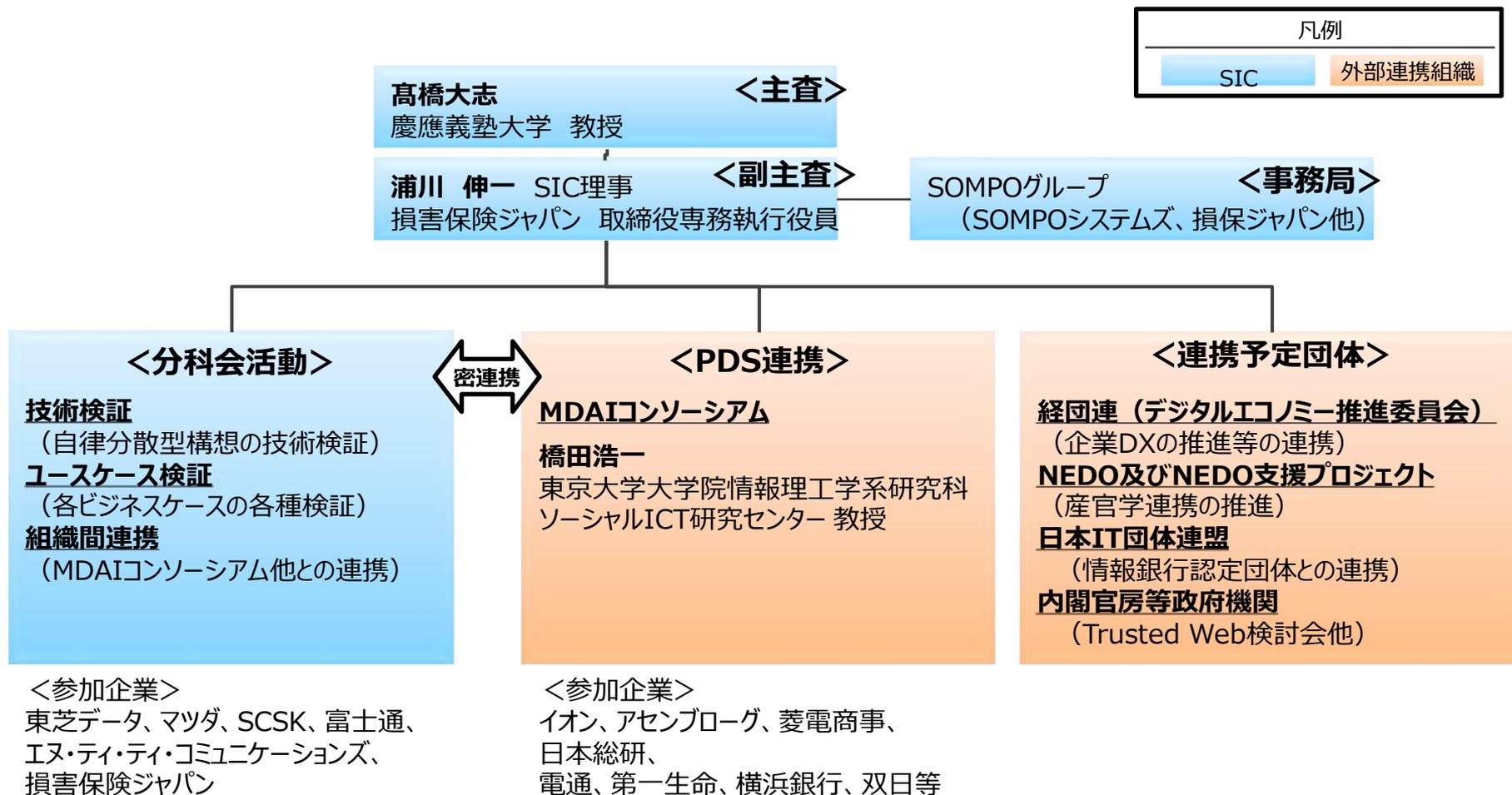
参加企業の メリット

- 各要素技術において、その道のスペシャリストとコラボレーションすることで幅広くかつ深い検討ができる
- 分科会で議論した要素技術に関する内容を自社のデータ流通構想やユースケースへフィードバックできる
- 共通的な「エージェント機能」を活用し、各社のビジネスケースに実装できる

2. デジタルエコミー分科会の体制

分科会はSICの規約に則り推進します。

並行して、政府、アカデミアなどとの連携を密に進め、実証実験にとどまらず、1年程度での実用化を目標に、マネタイズ可能なビジネススキームの実装を目指します。



3. これまでの検討経緯

第1回	2020年12月11日	<p><Kickoff></p> <ol style="list-style-type: none">① 主旨説明② 参加者自己紹介③ 意見交換（当分科会に期待すること）
第2回	2021年1月26日	<p><分科会></p> <ol style="list-style-type: none">① 損保ジャパンのデータ活用の取り組み状況と課題② 各社のデータ活用の取り組み状況と課題（1回目）
第3回	2021年3月4日	<p><分科会></p> <ol style="list-style-type: none">① 各社のデータ活用の取り組み状況と課題（2回目）② 分科会の今後の進め方意見交換
第4回	2021年3月29日	<p><分科会></p> <ol style="list-style-type: none">① 『講演』 パーソナルデータの分散的活用について

4. 今後の課題

1. 実証実験スキーム

- ① 実証実験の具体的なイメージすり合わせ
- ② どんなデータをどこから集めるかの具体化

2. 参加企業の再検討

- ① 実証実験ありきでの参加企業募集
- ② SIC参加企業以外への声掛け

3. 実証実験の環境構築

- ① 構築体制
- ② 費用負担

(参考) デジタルエコミー分科会の想定スケジュール

1月中旬以降、検討・実装のために隔週程度、会合を実施します。

	2020	2021			
	12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
マイルストーン ・Kickoff ・公聴会(勉強会)	★	★	★	★	
1. 検討 ・全体実装方式 (アーキテクチャ) ・PDSの実装方式 ・データ流通基盤のルール		→	→		
2. 実装 ・ビジネスケース研究 ・実装技術の検証 ・ビジネスケース実証実験 ・実用化検証		→	→	→	
3. 産官学連携 ・他SIC分科会連携 ・他団体連携		→	→	→	→
4. 全体取りまとめ ・提言書作成 ・承認・公開					→ ★